

花江都
歌舞妓

年代記

五編

下

花江都
歌舞妓
年代記
五編
下

津田文庫

文庫 1

1767

19

70

65

60

55

50

壬午の小孩がア冥の位西の後家木村自松本者居る。徳田の次々と馬とて此冥を
麻生に七行軌男女養。長田の在平。下り。涉尾五方。横笛と淡谷庄司。松本秋の戸
名や。養も大冥の近江のあう孫瓶より。松本年之平。かほも。西他女房。おは松本女
冥王女。白掃子千代孫。甲路もみ。ごんまんの又陀八と。九馬五方。行巻。養。淡谷の
庄司ふ門之郎。徳尾を。國養。そのを。宮男。養。あまの春と太。七代目園十郎。
當年十之支。あて九額の雙。落び一の在。夜。上下。御幣。さる。ぎ。暫の。出。て。死。

○志げふくははる孫

七代目 市川園十郎

東夷南蛮小秋世間のおりりも。か。り。三井の山椒の芽。小粒な。次。月。申。八。夜
の。手。荷。を。志。ふ。ら。た。ん。は。ん。成。田。の。不。動。七。代。目。の。あ。は。く。ま。ま。ん。ご。ん。さ。ら。者
先祖の光。王。は。ひ。ひ。お。ま。の。お。う。び。を。い。ご。く。二。さ。ま。ん。入。江。子。の。鯛。が。し。ら。ま。道。の。水。を

春。ゆ。あ。ひ。で。天。上。天。下。春。平。ふ。納。る。國。の。四。海。浪。ま。る。る。代。を。様。よ。ひ。鰯。鮫
鱈。殺。河。童。太。刀。の。り。上。と。赤。は。く。竜。王。と。り。は。る。ま。ん。体。と。忽。ち。よ。ご。ん。と。扱。り
首。抜。り。脊。骨。を。踏。み。り。踏。ま。ん。ご。り。イ。デ。お。ん。せ。ん。と。祇。園。余。の。御。連。次。居。と。此
名。前。の。山。曹。子。我。つ。ひ。の。眩。股。耳。目。と。称。れ。る。は。麻。の。森。と。太。正。俊。と。い。ふ。ご。ん。と。く
者。尚。年。積。で。十。二。夜。ま。ご。影。う。と。れ。武。義。世。の。月。の。妙。り。草。よ。入。る。尾。元。の。石。の
影。を。ま。よ。不。れ。と。く。く。踏。未。め。ら。あ。な。な。の。あ。め。ま。や。町。と。る。橋。の。家。の。様。ら
太。正。の。の。の。小。社。の。う。ち。へ。は。う。と。と。お。い。ら。ま。り。て。曰。

廻國の女六部妙音。冥の忠度のおく方八手機と。盛之の妻さ。彼。小。常。世。母。孫。滝。は。と。
う。馬。の。小。令。吾。武。里。平。の。家。り。り。之。夜。深。さ。か。錦。鳥。閨。文。車。富。本。豊。前。を。ま。車。中
相。勤。者。府。中。大。工。丸。大。評。判。し。同。教。見。世。河。東。陸。産。大。和。錦。鳥。閨。大。塔。文。と。側。近。伊。賀。等。も。

松助村上春四郎ふむ代を郎。九代院の十郎と冠十郎。日月長きものまじり玉。由井
 久年く。春賣江戸前の音松と松助と。切ん世の幕。実ハ且理新たるとか夕正まで。
 志比志やこの十れ通り。小帝の姫と申したのちと。付行女房のや衣。富く。びら
 はたろ中流和国をろ。ろがぬさほてん次希ふ春たろ。新田氏貞と紋。年細くたろ。
 清士又わ。実ハ赤松則貞。中へ存く。当南枝梅春日。常松津細を更連中。
 相勅。評判は。享和甲子年。春市村府。五月十五日。梅櫻松曾我。る我立希付家。宿根
 の月宿をら坊。中へ幸は希。女をさけ程と。新比系。赤沢十内。之役男女。鬼王五左衛門。
 新比系妹并づる。糸之。大いその虎と。さうらの片見。路く。けとの坂の。おね。あ
 近江の小坂を女房。片田と。糸の次希。女を。鬼王女房。月さまと。さけは。あ
 柳の。常世。八。妹。れ。尾上。存。前。梶原の。奥。あ。び。ら。小坂。東。辰。終。て。



寺町番目
市街

白の山
糸之

白の山
糸之

路

一とらとせねる喜納并持の万歳あて。五三目よほせ女工者の討面たてんうり。
 仁皇の女帝國十郎。徳成と國三郎二役添之助。之はあ耐家事四年。新ひる男如飛
 せと平初之。久く終に江戸風の流ちなる。亦大澤をんたてん。

元禄の時定時
 道のり
 山本の手山

豊前守
 初白
 四冊物

浄道
 行
其味香丸

松幸あひ三
 大和を更
 富本豊前守
 三 三保崎兵助
 強 鳥羽を里長

男連白柄をたると喜納く考の若提婆の仁と男女共。男とて唐大持。喜納織るや
 手代助たる。二や浅尾土なる山本のけいせいの山よよ。三日をたるとあつと平女柳
 路と。唐通も。進むもあつと路と。提督と進込村を共。は田合を更市川

門と吉原げい。やお嘉遊は新平。唐大組のきやひ。万歳各助小治。回とつと人
 めと七國を飛。小佛小の市山七を。あつとあつとあつと。十を市川國十郎。番名のき中
 幸庄総五郎。は村添と。徹と。や女房を共。小使川つと世。は通も。大澤判と。

竹寄指子
 東上総の夷藩の
 村の
 白藤源太
 土橋の

豊前守
 後
 四冊物

浄道
 行
素直重西
 松幸あひ三
 大和を更
 富本豊前守
 三 三保崎兵助
 強 鳥羽を里長



門之布箱券の形次、吉田園十郎、後おたよ團長、夷隅角を尋ね新平。
 たのと村玉丸、依ちる。岳田友軒、中や丸丸く、他も大評判、大入り、男女共
 評判じ。同去中村府の親見世狂言と持し、千人ゆゑその役割、身うち終て、以上
 看板を出一。去秋市村府まで、二世代を演じる八百巻。尚芝居、内縁の、内園と
 達と相親、二月十日より。玉屋新三、清の狂言とけし、八巻と。二胡文化、改元、二月中村府を
 出村新三、清と繪馬商人、橋や、三浦八百巻、氏亦勇、巻八十、助、三國小女、長と。
 玉屋娘、おん久、糸と。玉屋新三、清、二津五郎、お中、の女房、おち、民、女、娘、を。
 おと、和、濃、川、富、三、神、鶴、飼、九、十、巻、と。玉屋新三、清、二、六、玉、屋、三、代、二、九、巻、昔、八、町、か、く。
 ら、ふ、毛、の、合、き、布、お、荒、五、十、巻、の、三、人、花、真、の、道、行、常、盤、津、伊、勢、を、ま、連、中、勤、る。
 同春、河、系、崎、座、二、月、七、日、**戲場花巻**、鬼王と。若我、十、巻、お、伊、三、郎、月、ま、の、お、中、山。

富之弟。妹のきつと。大坂のげいこ小ふ。二役之系。五弟何宗在代。八幡の
 う。武をの。國之弟。後之。三浦の斤貝か。え。近江の小。友を和。男を。新ひ。子
 鬼次。阿野の法橋。全盛市川門。梶原平義。ま。た。らん。大坊九。室。六。禪。勝。坊
 冠。十。年。けい。ん。坂。の。少。将。ふ。七。義。工。友。祐。経。と。そ。の。満。江。は。あ。二。中。松。助。の。淨。福。院
 蝶。衛。松。太。夫。常。段。音。津。細。を。ま。連。中。と。て。勅。二。ん。目。云。信。長。傳。信。長。傳。松。助
 けい。や。も。山。七。義。ま。多。次。深。清。子。冠。十。年。梅。の。由。美。修。之。弟。女。房。小。柳。と。て。ら。長。吉
 岩。井。久。年。之。弟。之。月。の。河。中。清。へ。出。勅。し。月。府。入。月。十。日。より。お。山。新。對。經。海。後。津。の
 新。平。に。傳。之。弟。の。つ。ぎ。の。小。万。富。之。弟。奴。の。小。万。久。年。之。弟。隅。田。勇。介。小。森。代。と。後。室
 その。傳。實。の。音。羽。も。て。ア。松。助。久。年。之。弟。と。さ。う。と。打。の。雨。大。て。凡。同。中。村。府。ハ。三。月。の
 一。の。谷。然。谷。の。次。と。忠。度。之。津。み。つ。流。陀。六。八。十。助。六。流。を。再。荒。五。弟。即。く。山。の

武者。市。秋。村。は。た。ら。山。次。と。重。家。と。最。盛。ふ。か。ん。流。美。つ。孫。花。井。才。之。弟。な。り。
 月。武。友。同。長。春。種。種。種。及。玄。坂。の。道。玄。と。白。指。子。櫻。木。之。海。五。弟。也。故。人。之。海。五。弟
 二。十。三。回。忌。進。台。花。蓮。藤。子。道。成。寺。は。正。相。勅。同。宿。在。寺。坊。と。平。尾。の。次。弟
 二。中。八。十。助。市。九。坊。と。玉。川。ら。あ。荒。や。拍。木。お。り。ん。之。音。八。旗。之。谷。新。平。才。之。弟。
 浪。王。丸。小。民。之。助。長。老。娘。ま。で。と。中。村。七。之。弟。ゆ。も。大。て。凡。之。津。五。弟。太。高。の。兄
 同。四。月。中。村。府。元。祖。さ。は。わ。り。勘。之。郎。敬。并。妓。芝。居。初。寛。永。元。年。甲。子。年。文。化
 元。年。甲。子。と。百。八。十。一。年。の。壽。と。て。相。傳。の。系。圖。の。示。非。意。も。お。ひ。く。披。露。と。
 此。は。上。前。より。市。川。國。十。郎。勅。め。一。事。之。終。る。お。白。猿。の。流。居。の。才。故。今。七。代。目
 國。十。郎。少。年。十。四。也。市。村。府。の。勅。され。ど。勘。之。郎。頼。小。仍。く。口。上。を。述。る。その。無。者
 流。の。か。一。其。家。の。名。譽。あ。ら。れ。と。と。諸。人。是。を。終。る。後。若。相。傳。の。示。初。編

三人三言 卷之九

きの巻九丁のふゆ園をりつて未だ記と。月日月々々々 **歌謡組帯** 次年たる身

新七めいん流高市武をら荒五郎。沢井腰五と。武助まゝあ次とらる。後之海宮

春夜助まゝと。加村三田をら唐木政をら。後八十助あて。伊加紙と非人。勘付を合

らる狂言。市村所を五月五日 **甚難言** 宇治兵部常快と楠正成をうとん

大福を物心六。之役松中幸四郎。今江谷五平男女を。伊加大七と。庄屋七と。藤

二や老を。けのせん。大誠野よよ。と後室よ。せ波とせん踏と。佐夫小踏と。女補示

音信と鞠。徳秋夜よ。百性。手茂化。門之平。と。大夫園を。吉ん孫を

新平。士郎。や。伊平。次。中七。大。世。の。態。小。次。と。せ。ん。幼。九。と。後。を。と。と。打

五町。太。刀。義。切。石。丹。平。國。齋。石。堂。小。太。弟。中。十。平。奴。伊。連。助。小。源。と。か。女。茂。化

女。房。あ。さ。う。に。世。ゆ。も。大。で。大。洋。判。と。夏。芝。居 **盛衰記** 船。行。持。と。五。左。衛。門

年。と。と。和。田。の。す。盛。様。示。源。と。之。役。源。と。助。平。次。宗。と。樋。口。の。次。と。小。茂。新

母。と。と。と。侍。木。の。四。平。小。門。之。平。巴。と。せ。ん。と。あ。ま。と。中。路。と。女。と。二。平。目

義経腰掛 之。役。め。二。幕。五。平。三。浦。よ。上。左。右。女。房。園。女。路。と。今。京。の。と。江。村。茂。新

後。井。六。平。門。之。と。女。平。三。浦。生。輝。と。大。洋。判。の。月。七。月。十。五。日。より **音樓詞合鏡**

万。字。を。八。格。と。文。義。女。房。あ。ま。の。路。と。か。紀。の。園。や。文。義。と。佐。井。次。と。な。ら。ゆ。源。と。助。伯。父

源。と。と。道。具。や。中。三。浦。よ。茂。新。越。谷。の。伊。平。次。門。之。郎。大。木。場。の。之。役。茂。新

下。人。子。茂。新。と。七。幕。ま。ん。と。中。路。折。渡。と。切。と **其。得。浅。間。獄** け。の。せ。ん。五。州。幽。魂

路。之。分。巴。と。忠。と。源。と。助。か。と。う。れ。化。三。浦。実。の。和。田。次。平。江。村。茂。新。源。と。助。と。成。て

加。る。の。源。と。の。富。平。豊。と。あ。ま。の。常。幸。門。和。宗。と。ま。法。名。見。源。在。世。江。村。市。十。島

伊。豆。も。大。で。右。夏。狂。言。と。と。の。場。と。あ。ま。あ。ま。あ。の。内。ゆ。と。源。と。の。と。流。と。正。あ。り。て

毎日かろり移りしに松向と評判し。日中村座の八月十日百千本櫻川城を

浪海や浪平。提平平井。助。佐。友。忠。の。ぶ。源。九。六。中。一。津。五。六。

いづみの存とと。え。範。八。十。助。世。に。徳。川。治。ら。ス。今。也。静。は。あ。と。す。け。の。居。を。

勅。同。河。原。藩。座。七。月。之。日。香。徳。藩。藩。主。の。船。以。徳。清。室。の。尾。形。十。一。手。清。

と。此。村。大。攻。と。助。後。ま。ま。并。存。代。き。ら。折。枝。姫。の。め。の。と。袖。垣。と。徳。清。女。房。お。細。小。

中山常次。月。花。丸。の。め。れ。と。五。百。機。と。田。舎。座。座。徳。助。天。竺。徳。多。実。の。宗。祝。一。子。

大。日。九。之。宗。松。助。大。ら。く。吹。流。さ。道。に。船。以。て。異。宮。の。ア。ツ。シ。の。上。よ。上。下。と。者。と。出。る。

庄。や。沖。心。も。よ。谷。系。松。助。美。山。の。味。を。下。上。る。の。め。の。吉。岡。宗。祝。叶。助。と。後。よ。切。腹。

と。て。実。の。朝。鮮。の。下。木。宗。官。と。久。吉。は。責。亡。され。徳。多。を。我。子。大。日。九。と。お。も。り。て。

女。房。夕。浪。左。十。弟。也。足。も。自。害。と。ま。よ。り。宗。祝。が。首。と。松。助。お。も。と。と。捕。ま。大。

せ。の。ま。き。と。松。お。め。ん。を。し。と。入。と。上。り。雲。り。り。て。隠。を。及。具。形。り。て。樋。の。は。れ。

尤。右。小。大。勢。陰。を。持。ま。り。て。わ。る。ト。樋。の。は。り。大。き。な。る。も。き。蟻。首。は。く。と。て。

物。陸。を。は。き。う。け。と。休。も。も。ん。甘。と。一。と。例。さ。る。花。道。也。て。ひ。き。う。り。の。か。ら。ま。と。う。

松。お。四。て。ん。の。形。也。て。小。祝。が。首。は。提。ま。る。と。ひ。也。て。幕。次。は。月。花。丸。の。め。の。と。い。ふ。

機。も。て。手。負。台。船。より。徳。多。つ。き。殺。と。二。子。の。早。勢。り。あり。て。次。よ。り。砂。徳。多。

存。代。を。弟。と。あ。人。出。合。の。場。の。機。の。幽。冥。中。り。次。は。座。座。徳。市。也。出。木。琴。を。

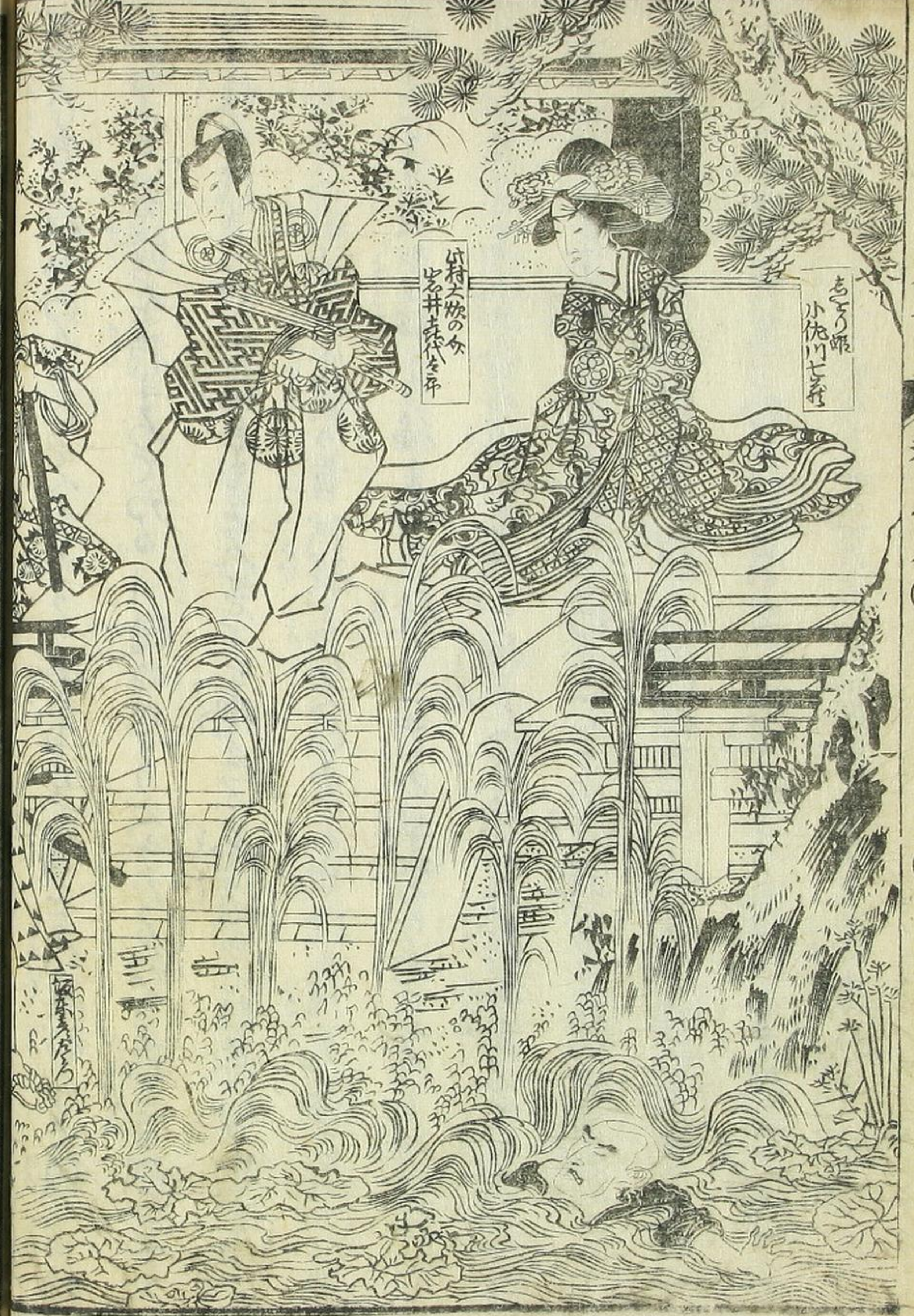
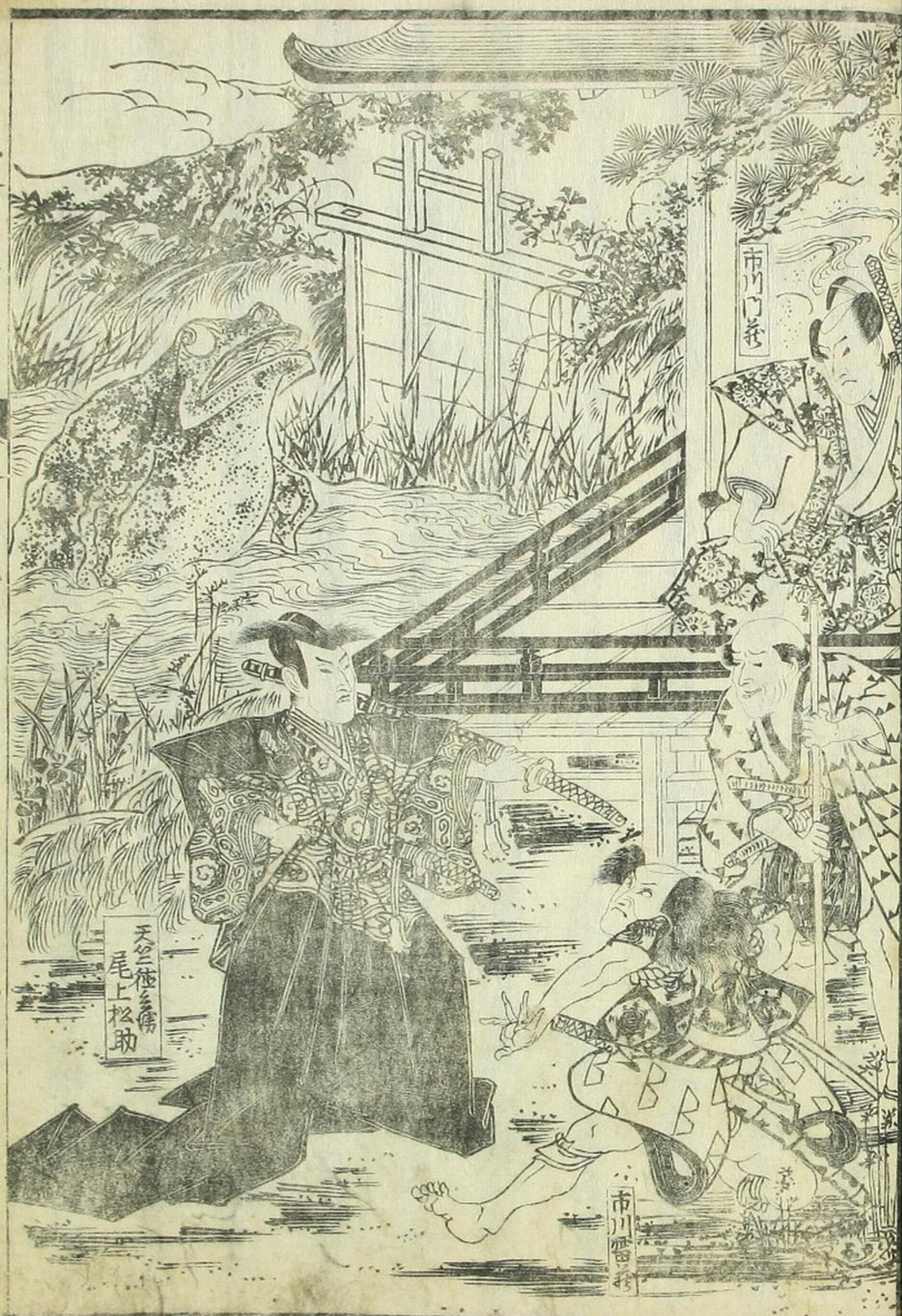
打。と。咽。を。う。と。う。砂。多。者。と。往。義。よ。か。と。は。その。後。前。さ。る。あ。の。中。へ。飛。込。休。も。

と。ま。ト。し。る。方。小。揚。幕。也。て。上。侵。と。嘆。び。松。助。上。下。切。け。花。や。る。百。日。か。ば。ら。

也。て。出。見。物。奇。異。の。お。ひ。を。る。と。○。此。早。か。ろ。り。之。は。津。よ。ま。後。病。者。あ。る。は。

と。大。評。判。也。て。人。の。夏。ま。さ。う。げ。ん。大。入。大。般。意。昌。ま。と。と。一。流。の。名。人。と。い。ふ。也。

天竺徳兵衛
尾上松助
市川徳兵衛



志乃の節
小佐川七三郎

市川徳兵衛
尾上松助

志乃の節
小佐川七三郎

八月十日午後狂言二幕

色取島露産

宅間の谷とち松久甥の丹精

田川狼之助二や叶助大上團八和田を名和を理之めは橋十郎土子泥も終る

を同河にのみは傍名古を小山よ鬼次とのせんき山小作川七飛狩野のみ

喜代三郎宅間娘おみや中山富とスケまで勅大切

七種秋錦結 七変化の正徳

大で江大評判に同市村府の九月九日より

漢書

大通辞書方曲義と渡田

幸十郎二役書江郎派津千守守と法徳寺の住僧教旨お左と長遠丸山の

けいせん尾中踏助伴信快典お左十木侍七海も同揃おきと常世

二日吉原

お左の男流お折江赤市と幸十郎折江の女團十郎

青柳お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七

お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七

河原崎府の九月十二日

幸十郎

初行をとり窓おき清お助お七

お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七

富と七変化の正徳お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七

忠徳

五辰目より九日お七お七

お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七

田良三助幸十郎お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七

中村府

廻國の終行者を幸十郎お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七

修勢の内侍下り漱川路考お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七

下り中山文七安郡願忠お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七

室の花園の小探の精美お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七

軽風お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七お七



古今物語

千代古道

無名之者
及名之并は也



伊勢
高安

高安
坂赤之海

彼の
滋川路考

古今物語

中世よりと云はれあり。五代の年女房様のと路より盤若五々仲別と下級八百平。実の
 孔雀之弟。四代目 市川八百巻 豊井表代をさす。まぬ。一わやきむらさか け府改名より 須戸の陸焼村西の松三清文三弟。おひく
 浦若と語十郎。同は六々若次大系に持負小園三浦 殺若五々妹なつめを伴ひ
 かり 瀬川亀と云ふ。 浄。まつねのなつかんせんか 初音貞海目見譜 富本豊平のま又連中にて路考と。八百前
 路三弟。三津五々。亦他と云ふ。同親見世市村産 **類觀** 藤原藤原 般若五々小園十郎。
 仕下の形とて出暫の年うなる年あり。七巻は里平。鬼やうやに次とみ清かみみ
 存歩ひ合違うけて這入。ま目切は相討の亦回國の初引者 嶋若実の赤の大猪
 武虎と云四弟。同名若実の孔雀之弟 成平助言を高助 赤目八百巻。一てうかぶ 改作と云 紙性と破り
 だんまりは幕抄と云姫よの三津子の少若と 奴各古色山平 小野の宿称す 流と云
 流と云。飛弾の内匠冠十弟。二夜うまの島女 浮姫おかみあり。より実と盜賊

立あやと若若 大筆公前と新平 奴不破の伴作と門三弟。石塚玄草五國若。赤代と
 いりと櫻木と万伴。小壯と云姫市川遊と女。二又目若の大猪 武虎昔に孔雀と云
 高助九條のけのせん玉かえよの三行奉とて 友人兼角力のせりじ。亦他のとて
 後ふ深草は人形うり丸き弟と流と云茶せん賣か八手路と云。実の少將と。小町仙卷
 さとく 徳市も助と牛にのせ 尾末賣おともいよの三実の友人兼角の精気なり。

浄瑠璃 **花舞** **意匠**
 同 妻太夫 三鳥羽屋又
 富本齋富美 弦鳥羽屋長
 同 官路太夫

右連中にて相はとあしりしきも
 大でた大評判より。白紙と云

河内崎屋 **三浦** 明の姉辰夜又御参と松助 西のまの丸大信三 明郷と仲若
 和田若と土勘法印國五弟と若み招魂の法とて 姉辰夜又菰生の亦松助例の通り
 若めと田若の子はよ少次と。二の瀬の源吾九十弟。浪辺源次綱市川男女翁とて。

松助と鶴姫の鬼女の見入天て元源の頼光尾上栄三郎。付付上方より下りて松尾
舟きき木。実の池田の守純言の島女花園姫中山富三郎。先てり多ふ市川男寅
坂田合尉男女をめて傘がさしうけのせの由。四人の形化し。浄るの雪振袖山姥
常盤津綱をま。同衣代をま。同組をま。之は常盤小式部。同式位。同祝吉。同市常
相助。前浄る。頼光上総の任より伊豆國之島の社にて先その姫よる
幸一亦父池田の守純言より近きりしとらり。舟波をり門をめて辰夜又西子
方へ橋と。栄三郎門をま。其具廻る。合尉は山姥山へ母がく。浄るを
眼を乞一跡し。後の浄るありあり。

幸三郎と間の男岩組の張物。その伊よ九三の女果實。伊藤源と。其
掛る家基竹簀笥。そのみらおき。は山おほける物と。遠具
門はよ木木の松木足柄山のけ。先する。写物。紙をよる男女を。
公時と羽織り。其大小。紅紫の枝。酒樽大盃を結。子り。生ころ。
浄るありて。生醉の亦門は。浄る。たの。ま。く。ト。ふ。

家。ち。ち。の。ろ。き。も。知。ら。ぬ。此。山。中。に。松。吹。風。の。お。と。り。同。人。ま。ま。
か。る。我。が。任。家。へ。案。内。と。あ。た。を。浄。り。ト。浄。る。り。お。な。り。て。簾。を。上。る。この。同。よ。
富。く。白。ひ。く。振。袖。よ。苦。の。も。ち。浄。る。さ。ら。ば。附。の。衣。裳。さ。ら。毛。の。か。は。ら。
年。を。山。姥。の。こ。ろ。入。車。と。り。て。居。る。見。く。マ。ア。そ。う。快。童。丸。や。る。の。ト。
親子の各業あり。男女赤赤あり。其の形。お。て。子。位。の。お。し。乳。の。ま。ち。付。花。の。
た。ら。れ。浄。溜。り。て。正。能。あり。て。後。は。富。く。山。姥。の。仕。舞。あり。上。す。練。の。雲。あり。
ト。と。く。下。り。の。四。人。獸。の。面。鏡。く。み。次。多。く。其。等。り。男。女。を。再。か。る。

男女共々事にする。皆く起上の種々の面を多く事なるび

一うづくま 男共 一こやアアおんからゆめ 痕の尾九系 一ヤアゆめ 松本流

あれさて山城我盗を渡せして足柄の山どのの痕の尾九系とあれ

形の中せてもいふ又耳まで酒も各仲間へぬを志めてはるる

なう軽きれと。まうも四人のからん 市川 一むえと 市川 一むえと 市川

吸物の一ッ。いん食せとけけと物薄をうそふ洗施の南やと控着しと

突ぬく猪牙平 極赤倉 一むがひの然の膳 丸九子 一むがひの然の膳 丸九子

一吞まうけ合と。むびの合と山割をからし思ひ月の橋 市川 一盗人

仲間ゆめの長ひ様とあるん 市川 一むがひの然の膳 丸九子 一むがひの然の膳 丸九子

う隙のやれ跡 市川 一むがひの然の膳 丸九子 一むがひの然の膳 丸九子

小様の六平 一 一むがひの然の膳 丸九子 一むがひの然の膳 丸九子

四人 一 一むがひの然の膳 丸九子 一むがひの然の膳 丸九子

四三お近ひ山城 一 一むがひの然の膳 丸九子 一むがひの然の膳 丸九子

トあふの鳴ののま 一 一むがひの然の膳 丸九子 一むがひの然の膳 丸九子

山姥のよち 一 一むがひの然の膳 丸九子 一むがひの然の膳 丸九子

あて松の枝 一 一むがひの然の膳 丸九子 一むがひの然の膳 丸九子

一むがひの然の膳 丸九子 一むがひの然の膳 丸九子 一むがひの然の膳 丸九子

男女共々事にする。皆く起上の種々の面を多く事なるび

ちいけのうち。男女共松の太木を 一 一むがひの然の膳 丸九子 一むがひの然の膳 丸九子

見へん 一 一むがひの然の膳 丸九子 一むがひの然の膳 丸九子

さめしき鳥丸有さし合坂東之木我左少弁やとほく尾上小の後男おつる
 の下ゆて後意の安よ尾上栄三郎は君のきうとほてんおんアをなるとり客
 西念坊よの助乳母おつるふ國五ふ子のお志げの心算情。ゆきもあうくく物
 らんと抱ゆる。門後夜は彼處の保昌が家来四五子をして執光の執事ゆる故
 はつたまゝの安どなるものせつ是行跡は清彦若角軍左を以て執事馬の跡を
 持まると。藪の中より突ころし。男がおと武を執事おつる。世相馬の良門
 いのと七のやと馬を執事おつて出立を以合富三平小女お抗めて。とくとんの幕
 五立目平井の保昌の策妻のつて式詔よ常世妹橋立七の安浦よ栄三郎。
 母幾野よ。子郎頼光の才替りふやと助とるんと。言たらげの橋立と頼三の
 盃させ悠膳のふあり。ゆるもたてた之評判。日六五日

本邦幕三間と示結構なる翠簾家体たすなりみぢのき末らん分の
 せの中額をを色よ娼といふ文字書をあり。あつは本邦の若。市川勇飛白
 兼子お持まうんて居る。この方は辰之介。中山金次郎。白浪の上を肩かかして
 男權の別とさるる。これをたてて居る。辰之介は辰之介。あつは本邦の若。市川勇飛白
 兼子お持まうんて居る。この方は辰之介。中山金次郎。白浪の上を肩かかして
 兼子の形をして付流本邦といふ事なり。松助頼光が首をくと勅使を差
 せしもの。兼三郎といふては兼三郎の中へ入る。富三郎一人お入りの。平井の保昌
 出仕とる。三味線入りの樂よの。いふと。あつは本邦の若。市川勇飛白
 兼子お持まうんて居る。この方は辰之介。中山金次郎。白浪の上を肩かかして

等世うちけの巾に大小をきし首桶をりちお花道のよりの行ふとある上る五す
 ぢりの踏さぐりて乱間をそ一母の文字の額のをと入まんとして又まきる風情
 あべー是をまきるといふまで一さかめのまよかまの白つゆ荒る宿の
 玉とてれ珠は荒ゆ一巻山の御山一今さらこれ額のりて入あれがせんと
 くらも風つあをぬ飛のうまぬ一酉陽雜俎よちしる車輪のぬたぬた
 深山に居るといふ人が食すとら我ひの本にもりか入りの其まほしあのとまき
 叔の此やど洛中いそ葛城山よ羊狩る土旅文怪きまの語あり王位よ教とる
 魔王の口ごう一二世とらぎり我妻の縁のきれぬぬの纏よ及りなるとあら
 とほのう一今めのまふあつてい一かほか一まが一いふののいあなアト
 一アアそのうり初め式は今平井の保昌といふは一いふはわと

ぼぬんかほのとも今日まのちの次もとて夜又とせんをうりれが今令あ
 より夫保昌まのりまるとる昔の正折らるる在國の田うとらひは男捨あ判
 の此河所それある女子といふの刀服じりといふまらるる二人い入一いせ
 中うとがなゆうまといふアアまのい入一まゆうあはあんまはれあ
 トあつた人の語りのゆておあひいすまら二た一とての首あぬ
 花園をあら此は山おあ出のゆうとまのきいあはたがあまひりいあんと
 ああんとあていりある一たはさそいもまのゆで懸一はあいらあ
 ア頼光あまのはあの上とゆうまといふいりてはま一あぬか一その頼光あ
 はあの上夜又とせんがうりの仰よとてせひあへは子書とてあまあを
 は首うてあまといはし一アアくあんとそああんとあ○ハ一あ



一類の菓を食ふ山嶽のまきらのあの一筋の 一男を縛るひまの妙火の

のの鬼 一サ鬼の位一の羅生門に光より降りし令れをまきと波辺の

細又宝を天子にばまも同業と夜又はあまの位をひひまを継目の

宝せんきのこまり ○男禁制のあの禁れとこころをばはて定光とのサよ

まがらまをまきとあまの 一誠お所生門に波辺が鬼のうらま

切の府伯母は化くまきと取かえられ今又は劍をとりかえらる鬼母まきとの

角オ獲るの禁制のまきれをりて國家をれまの額まきこの中にお

ト禁制のれをりまの額をりも落とはせめて宝をん出

一まきとそ尋ねるまのほ府のほ劍 一りる羊があらまきとまきと仕返お

まきとまきとまきと肝がうらまのなまきとまきとまきとまきとまきと

あまのトまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと

又男女をまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと

撫の足と切はうまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと

一頼光をん念と切まきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと

男をまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと

一まきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと

トまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと

捨とみ軍兵を相まきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと

のり連づくとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと

まきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと

